

# 歌い継がれて30年 愛され続ける対馬の応援歌

対馬の朝、午前7時。1日の始まりを心地よく知らせてくれる優しいメロディ。

30年前に地元青年団の企画から生まれた対馬のイメージソング「夢・この街」のワンフレーズです。

実は、歌詞に「対馬」という言葉が一度も出てこないこの歌ですが、聴く度に対馬の風景や人のぬくもりが溢れてきます。

今回の特集は「夢・この街」にスポットを当てます。

## 対馬イメージソング

# 「夢・この街」

作詞・作曲 梅野 昌宏

都会に夢求めて 旅立つ人がいる

若さにまかせ生きていこうと

縛られることをこばみ続けて

どこかに行けば夢がかなうだろうと

だけど旅人この街にも

素晴らしい人がいる出会いがある

遠く離れてもふるさとは

君を忘れはしない

夢すりきれ さまよい 旅に疲れても

君の生まれた街に まだ君の夢がある

時のはやさにとまどい 人の波におされ

たった一人だと思える時

過ぎゆく日々に迷い続けて

悔しくこらえきれずに涙するとき

きっと旅人思い出さだろう

忘れかけた優しさ人のぬくもり

心やすらぐ「夢・この街」

それは君のふるさと

歩きつかれた都会 心傷ついても

君の愛した街は まだ君を待っている

### 「夢・この街」

巖原地区青年団が1985年に発表した対馬のイメージソング。プロに頼らず、企画から曲作りまですべてが島内のアマチュアだけで作られた。その後、対馬連合青年団の後押しで1988年にレコーディングされ対馬全島に広く愛される曲となる。同時に旧巖原役場が朝のチャイムに採用。対馬市に合併してからも市民投票により市民の目覚めの一曲に選ばれた。レコーディングから今年で30年、この曲をさらに継承してほしいと6月に「夢・この街」コンサートが開かれる。



## 「夢・この街」誕生について当時のメンバーにお話を伺いました。

### ～これまでにない対馬のイメージソングを～

1970年代後半から、各地で野外コンサートが行われはじめていました。そんな中、厳原地区青年団も、1985年8月31日に「サマーフェスティバルin TSUSHIMA」を開催。これまでにない対馬のイメージソングを作って発表しようとその1年ほど前から団員で曲作りを始めました。「都会に夢求めて旅立つ人がいる 若さにまかせ生きてゆこうと～」最初のフレーズを私が提案。その後まさかの入院をし、後は梅野さんらに託しました。入院先にデモテープが届き聴いた時は、思い描いていた以上の曲で感動したのを覚えています。



イメージソングづくりを提案した浦田 正樹さん

### ～「夢・この街」は私の身体の一部のようなもの～

青年団から対馬にまつわるワードを集め、それを集約しメロディをつけました。民謡や演歌調のご当地ソングが多い中、敢えて「対馬」という言葉を入れず、どこの過疎の町でも歌える、若者が共感できるものにしようと考えました。中でも2番の歌詞は本当にもがき苦しみながら書きました。コンセプトは対馬の人たちの心に送る応援歌。「私たちは対馬に暮らしているけれど、同年代の都会で頑張っている仲間にも望郷の思いがあるはず。ふるさとはいつも待っている。辛い時は帰ってくればいいよ。」そんなメッセージを届けられたらと。サウンドは、ビートルズやチューリップに影響を受けています。

サマーフェスティバルでは、私が所属していたアマチュアバンド「マーシャル」が歌いました。



作詞 作曲を担当した梅野 昌宏さん

曲の発表以来、祭りや敬老会、成人式など対馬各地のイベントに呼んでいただくようになり、対馬全島の青年団の呼びかけと協力でレコード化が実現。最初は1000枚、嬉しいことにその後300枚を増産しました。NHK長崎放送局では3か月にわたりプロモーションビデオも放送され、さらに多くの人にこの曲を知ってもらうことができました。

団員が家庭を持つなどして活動が縮小されていった時代もありましたが、朝のチャイムで毎日流れ、今では学校の生徒さんたちも歌ってくれたり、とても嬉しく思っています。「夢・この街」は間違いなく「私の身体の一部」のようなもの。それだけ思い入れがあります。

### ～この歌とともに人生を歩んできた～

サマーフェスティバルの時、副団長だった私はステージの裏方でした。野外コンサートを自分たちで行い成功を収めた喜びは今でも心に残っています。マーシャルのメンバーが転勤になり解散。2年後から私がボーカルとして歌わせてもらうことになりました。

歌い続けることが自分の使命と、機会あるごとに「夢・この街」この1曲だけを歌ってきました。せつかく作った歌だからみんなにとって「この曲を知っている。対馬をもっと好きになる。」そんな存在にしたいと思いつけながら…。思えばこの歌とともに人生を歩んできたような気がします。



ボーカルの福井 恵一さん

6月の30周年コンサートには、対馬出身や、対馬に縁のあるバンドが参加します。世代を超え、多くの皆さんに楽しんでいただけるよう当時の団員たちで内容をにつめているところです。「夢・この街」の生演奏もお楽しみに！ぜひご来場ください。

# 「夢・この街」コンサート

**とき** 6月17日（日）開場16：00 開演16：30

**ところ** 対馬市交流センター2F イベントホール

**出演** ずんだれ他、対馬市内外の  
アマチュアバンド

**入場無料**

「夢・この街」をお聴きになりたい方はこちらへ



**主催** 「夢・この街」コンサート実行委員会  
**後援** 対馬市教育委員会  
**協力** 対馬市青年団  
**問い合わせ** ☎090(5724)3275(事務局:浦田)

## ☆対馬活性化ユニット「ずんだれ」が曲をリメイク！ 「はじまりの朝 ～夢この街～」もチェック

①「夢・この街」という曲の魅力。また好きなフレーズがあれば教えてください。

1番印象深い詩は、『君の生まれた街にまだ君の夢がある』という部分に凄くひかれました。自分たちも音楽活動を始めて、島でもできる事からまずやっていこうと思い、今まで継続して活動している事が出来ています。都会に出ないと駄目という風潮がありますが、この生まれた対馬という島でもたくさんの夢が見られるし、叶えられるという事に、この曲を聴いて再度気付きました。

②この曲をリメイクしようと思ったのは？

ずんだれの「はじまりの朝」に込めたメッセージは？

この曲は自分たちの世代には朝のチャイムの印象が強く、音楽活動をやる前はこの曲に詩があることも正直わかりませんでした。曲を聴いた時『こんな名曲が対馬にもあるんだ!!』と驚き、すぐリメイクをさせて貰えませんか？と浦田さんに連絡したのが最初です（笑）。対馬でできた『夢・この街』という曲を少しでも若い人たちに知って貰いたいと思い、リメイクさせていただきました。この曲を聴いて、対馬でこんな事がしたいとか、こんな事ができるんじゃないかと1人でも思ってもらえれば幸いです。

③6月のコンサートへの期待

このような場に呼ばれる事を本当に光栄に思います。  
少しでも多くの人たちに「はじまりの朝」を聴いて貰いたいので、ぜひ皆さん遊びに来てください！



「夢・この街」コンサートでは、はじまりから関わった人たち、この曲を聴いて育った人たち、このメロディに憧れてステージに立つ人たち…。縁のあるアーティストたちが集います。30年経っても色あせないこのメロディを世代を超えて一緒に歌いませんか。